

したが、胆だめしのつもりでしたのであまり身がはいっていません。それだから試験の二日目、試験が終わってないのに丁度御幸坂から熊本城にかけての桜が満開だったので、桜見物に行ったりしましたね。やっぱり悪ゴロだったんでしょかね。帰ってから父にこっぴどくおこられました。こういう具合だからうかるはずがありません。それで六年の時又、受けなおして合格したんです。

寄宿舎生活

中学は四年間、寄宿舎で生活しましたが、大変楽しかったですよ。放課後は、殆んど運動ばかりしていました。夕食が終わった後、七時から二時間自習時間が決まっていたんですが、運動して帰っていると疲れて勉強に身がはいらなかったですよ。それだから勉強はしなかったなあ。舎監の先生が自習時間になると、時おり遠くからでもわかるような大きな靴音で、「眠っている者は起きて勉強しろ」と言わんばかりに……先生の親心だったんでしょけど、コッソリ、コッソリ、コッソリとやって来られてました。

寄宿舎は三棟あったんですが、五年になるとこの寮長になれるんです。寮長の嫌がきびしくて、大分ピンタを張られました。軍隊みたいでしたよ。しかし、今考えても寮長はばってていましたね。私も寮長したかったですよ。……笑い……

自動車通学

中学五年になってからは津森から自動車通学をしました。ほろのついた大きな車で今のバスみたいでした。

男女一諸に通学してましてね、私は少々早熟だったかも知れませんが、木山から旅館の娘さんとても綺麗な方が、市内のある女子校に通っていたんですが、人知れず思い染めるというまでの気持ちではないけれど通学するのが楽しかったですよ。行きは大体同じですが、帰りは三々五々でしょう、それで停留所のところで彼女が乗るのを待っていたりしてましてね、一度、彼女の顔が四々五日見えないうです。それでどうしたんだろうと思っていたら、人づてに足を骨折して入院していると聞いたんです。また入院先が同級生の家なんです、だから、「よし、それじゃ見舞状を書こう」となりまして、書いて同級生に頼んだんですが、一向に反応がありませんでした。後日、大人になってから、同級生に、「お前はあの時、本当に渡してくれたんだろな」なんて言って大笑いですよ。

この女性は、「美人薄命」というところの女性校を卒業後、数年して亡くなられたそうです。

よく遊びよく学べ

中学のときは、運動ばかりしていて、

勉強をしなかったので成績は悪かった。

一年の時、五等だったですよ。これは、一等から八等まであったんですが、中下ですね。亡くなった兄貴から少しおんおこられましたね。それから少し勉強しましたところ、あとは四等と三等の往復でしたが、四年の時、二等に一回だけなりました。

熊本高校七十周年のとき記念講演をやってたんですが、私は熊中時代の話をし、高校時代は「よく遊びよく遊べ」、これが逆でもよい。成績は中位でもよく、とにかく、身体が、がん健でなくてはいけない。そうでないと精神が腐ってくるので、いろいろ運動をやって身体を鍛えなさい。また、頭を訓練しておかなくては、万一のとき頭が働かないので、たまには一生けん命勉強して、良い成績を一回位とってみなさい、それから、根性が一番大事なんだから、不撓不屈の精神を養えという話をしましたら、生徒たちが大変うけまして、壇上からおりるとき、生徒たちが足を踏み鳴らしながら拍手するんですよ。まあ、どこが受けたかと言うと、「勉強はほどほどに」というところかな。

人生は縁

長崎高商三年の夏休み、新聞記者を志し、毎日新聞の社寮室に父の紹介状を持って徳富蘇峰先生を訪ねた。これは家が

の親類からの紹介状が出田さんに届いている訳ですよ。驚きましてね。学校とプライベートが偶然にも一致したわけです。

対話の精神

昭和十九年八月、神奈川工場勤労部長を命ぜられたんですが、まず最初にやったのが従業員との話し合いです。今の対話の始まりですかね。代表を十数名、勤労部長室に呼びましてね、要望なり要求を聞いたんです。すると、代表たちが喜びましてね、今まで部長室なんか入ったことないと言ってます。

話し合いの中で、まず、防空壕を造ってくれと言ってます。川崎は空襲を受けるとい情報がありまして、後に実際に受けたんですが、それで切実な問題だったんです。私もこれはぜひ造ってやらねばと思わしてね。ところがいざ造るとなると、会社の方としても、資材がないとか、貴重な就業時間はさけないとか、いろいろ問題が出ましたが、これを造ってやらねば勤労意欲もわかず生産性も向上しないと強力に説きましたよ。

当時、我国は商船隊を再編し、日本の輸送路を守るとい(商)作戦の計画があり、日立造船は川崎に工場を建設し、一

万トンの商船を月産二隻建造することに、工場建設と併行して建造していたのですが、こういう事情もありまして、会社から、各自、一日二時間と、製材の残りの板をもらって防空壕を造らせました。それともう一つは、飯場ですよ、冬場はすきま風が身にしみるんですよ。これもどうにか考えてやらねばと思わしてね、そこでオガクズでたぐストロブを開発しまして入れてやったんです。

これからの造船界

日本の造船業が世界の建造量の中で、ヨーロッパ諸国を抜き世界第一になったのは昭和三十一年からです。一時、四十九年、五十年は世界の建造量の五十パーセントを越えていました。現在は日本、ヨーロッパ、新興造船国で三分しています。新興造船国には、お隣の韓国、台湾、スペイン、ブラジル等があります。日本の場合には大型タンカーが主力だったために、今度のオイルショックでは一番大きな打撃を受けました。ヨーロッパ

諸国はLNG船、LPG船、コンテナ船等の特殊船に、はやくから着手してしましたので、日本ほどではなかったようですよ。その点、日本の今後の技術開発がのぞまれるところです。また一つは海洋構造物の開発ですね。これは私達関係者は関西新空港に期待したわけですが、結局浮体工法ではなく埋立工法になりましたね。科学技術の発達のためにもやりたかったですよ。日本は知ってのとおり、陸地はもうないんです。海の利用というものをもっと真剣に考える必要がある。だから新空港をただ単なる飛行場建設ということではなく日本の科学技術の発達をどうするかというふうには評価してもらいたかった。アメリカなどどのような技術開発は軍事予算で措置しますよ。アポロ計画がよい例です。しかし、日本の場合はそういうふうにはいかない。国防費がGNP、〇、九パーセント位の予算では、このような技術開発にまわす金はない。

地方の時代と県政

八十年代は、よく地方の時代だと言われますが、これからは熊本を含め地方都市は、文化の拡充と情報文化の整理が必要かと思えます。新聞にしましても東京大阪地方より、半日は確実に遅れていますし、又、私は有明工場の新陸機工場は

親戚関係だったもので。この時、徳富先生が言われるのには、新聞記者は百の努力に八十の評価、実業界は百の仕事をすれば百二十の評価をうける。このようにむずかしい世界なんだ。それに三つの強いものがなくてはいけない。筆、体、心臓。三拍子揃わなくては記者はダメだと。私は筆には自信があったんですが、と言いますのが熊中の時は文芸部にはいって夏目漱石に傾倒し、また、長崎高商に入る前に一年浪人したんですが、この時代に日本文学全集を殆んど読んでましたので。ところが身体の方が中学の時ろく膜をやった事がありまして。完治してたんですがもうひとつ自信がなかったのと、どうしても記者になりたいのなら、「長崎遊学の記」のようなものを書いてこいというわけです。さて、文章には自信があるというものの、いざ、書くとなるとなかなか書けなくてね。自信喪失しまして、とうとうあきらめちゃったんですよ。

九月になると兵隊検査があったので、田舎に帰って受けたら、第二乙ですよ。それからこれはいかにという事で、十月頃から、また就職口さがしですよ。そうこうしてうちに学校の教頭先生が、菊水出身の方で、長崎高商の第一回卒業生の出田さんという、当時の大阪鉄工所東京営業所長をしておられる方を紹介して下さったんです。それで教頭先生からの紹介状を持って行ったところ、偶然、私

これからの日立造船の一つの柱にしたいと思ってるのですが、最初有明工場を建設した時に、従業員を大阪、広島から転動させたわけですが、そのときに子弟の教育に困ると言ってますよ。私は熊本は文教の地であり、熊本大学もあり、優秀な高校もたくさんある。と説明してもダメなんです。他県の人はそうみていないみたいですね。私は地方大学も最近内容も充実してきたし、捨てたものではないと思ってますけど。私の会社には東京大学、大阪大学、京都大学、一橋、早稲田、慶応とか都市圏の大学、また、各地方大学からも採用してありますが、採用時の成績は地方大学がいいようですね。それだけ勉強してると言うんです。ただ少しあか抜けしないところがあるわけですよ。やっぱり文化の光が少し翳っているせいじゃないかと思うんです。

地域と密着した観光資源の活用

知事さんも大変観光行政に力を入れておられますが、私もまったく同感です。熊本には他県にない観光資源がたくさんあるので、地域と密着した有効な活用をはかってもらいたいですね。最後にやっぱり、交通基盤の整備ですね。新幹線をはじめとし、九州縦貫道、空港の国際化、県内の道路網の整備等をする事によって、ある面の地方の時代が来るんじゃないでしょうか。